

# 丹沢大山保全計画の改定について

平成19年1月(自然再生セミナー)

神奈川県

## Part1:丹沢大山保全計画の実績と課題

- ・丹沢大山保全計画の実績
- ・保全対策の課題

## Part2:丹沢大山総合調査の実施

- ・総合調査の結果(自然再生基本構想)

## Part3:丹沢大山保全計画改定の概要

- ・丹沢大山保全計画改定の概要
- ・丹沢再生のための推進体制
- ・今後のスケジュール

## Part1:丹沢大山計画の実績と課題

## (1)丹沢大山保全対策の推進

丹沢大山保全計画(1999)  
科学的な自然環境の管理  
生物多様性原則による管理  
県民と行政の連携

自然環境保全センター  
の設置 (2000.4)

みどり施策の効果的展開  
丹沢大山保全計画の  
総合的推進

ブナ林や林床植生の保全

大型動物個体群の保全

希少動植物の保全

オーバーユース対策

自然保護センター

箱根公園管理事務所

丹沢大山公園管理事務所

森林研究所

県有林事務所

統  
合

## (2)丹沢大山保全計画の実績と課題

丹沢大山保全計画(1999~2006)

目 標:「丹沢大山の生物多様性の保全・再生」

基本視点:1)科学的な自然環境の管理

2)生物多様性原則による管理

3)県民と行政の連携

対象地域:丹沢大山国定公園、県立丹沢大山自然公園

38,927ha

施 策:4つの基本方針(施策の柱)

ブナ林や林床植生の保全

大型動物個体群の保全

希少動植物の保全

オーバーユース対策

## 施策の実施

### ブナ林や林床植生の保全

設置後5~7年後に  
顕著な効果

- ・林床植生の回復
- ・希少植物の回復
- ・昆虫類の回復
- ・土壌動物の回復



写真は、神奈川県林政課より提供

## 施策の実施

### 大型動物個体群の保全



ニホンジカ保護管理計画の策定(2002~2006)

## 丹沢大山保全計画の実績

### ナ林や林床植生の保全

植生保護帯の設置 17ha  
立入禁止区域の設定 3,782m  
モミ、ウラジロモミ等の保護 971本

### 大型動物個体群の保全

シカ保護管理による管理捕獲 192頭  
農林業被害等防止のための捕獲1,506頭

### 希少動植物の保全

植生保護帯による希少種の保全 17ha

### オーバーユース対策

環境配慮型の山岳トイレの設置 8基  
登山道周辺の木道の整備 2,049m

## 丹沢大山保全計画の課題

1. 事業量の不足
2. 処方箋の不足(現状 - 原因 - 対策の解明)
3. 行政・関係者の理解・連携不足
4. 保全再生の必要性の理解不足(県民参加)
5. 順応型管理を支える「ひと・かね・もの」不足

## Part2: 丹沢大山総合調査の実施

## 丹沢大山総合調査



## 総合調査結果概要

調査結果  
3つの自然再生の手法  
6つの自然再生の原則  
4つの景観域  
8つの特定課題



とりまとめ

丹沢大山自然再生基本構想と県へ政策提言

神奈川県 丹沢大山保全計画の改定

### 8つの特定課題

ブナ林の衰退 	人工林の劣化 
ニホンジカの影響 	希少種の減少 
移入種の増加 	溪流生態系の悪化 
自然公園過剰利用 	地域の自立的再生 

### 3つの自然再生手法

	受動的再生	能動的再生	活用的再生
再生手法			
	保護・回復	復元	創出
	維持管理		
将来像			
	本来あるべき姿	新たな姿	活用の場

### 6つの自然再生の原則

- 流域一貫 山から海まで流域単位で
- 統合的管理 横断的な取り組み
- 順応的管理 モニタリングで常に見直す
- 景観単位の管理 4つの景観域を単位に
- 参加型管理 利害関係者の関わり、環境教育
- 情報公開 透明性と合意形成の確保

### 政策提言

- 県民参加による保全計画の改定
- 自然再生委員会の設置
- 自然再生推進本部の設置と自然環境保全センターの機能拡充
- モニタリングと総合解析に基づく事業の見直し
- 特定課題の対策および統合再生流域における事業の推進

新編実行委員長から松沢知事へ提言書提出




丹沢大山自然再生シンポジウム(06.7.30) 650名参加

Part3:丹沢大山保全計画改定の概要  
~丹沢大山自然再生計画~

### 基本構想と改定計画の関係

<p>&lt;自然再生基本構想&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来像(概ね50年後)</li> <li>再生目標(4つの景観域)</li> <li>自然再生の6つの視点</li> <li>8つの特定課題)</li> <li>統合再生流域</li> </ul>	<p>&lt;丹沢大山自然再生計画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来像(概ね50年後)と再生目標(4つの景観域)</li> <li>計画の視点(6つの視点)</li> <li>事業計画(8つの特定課題)と自然再生の基盤整備</li> <li>統合再生プロジェクト(3つの統合再生流域)</li> </ul>
---	--

## 改定計画の構成

- 将来像(概ね50年後)と再生目標(4景観域)
- 計画の視点(6つの視点)
- 事業計画(8つの特定課題)
- 統合再生プロジェクト(3つの統合再生流域)

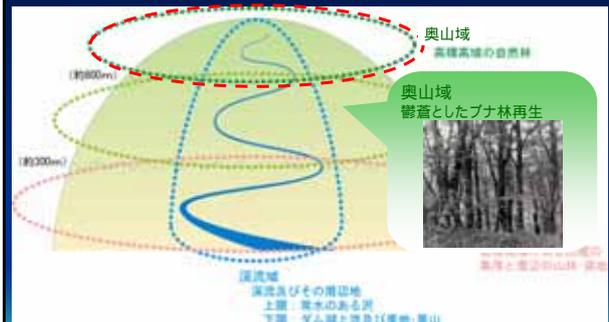
## 改定計画の構成

- 将来像(概ね50年後)と再生目標(4景観域)
- 計画の視点(6つの視点)
- 事業計画(8つの特定課題)
- 統合再生プロジェクト(3つの統合再生流域)

## 再生の全体目標

人も自然もいきいきとした丹沢大山  
 <丹沢大山の多様な恵みの再生>

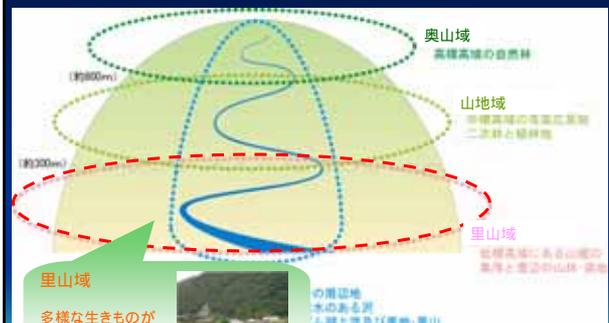
## 景観域と再生目標



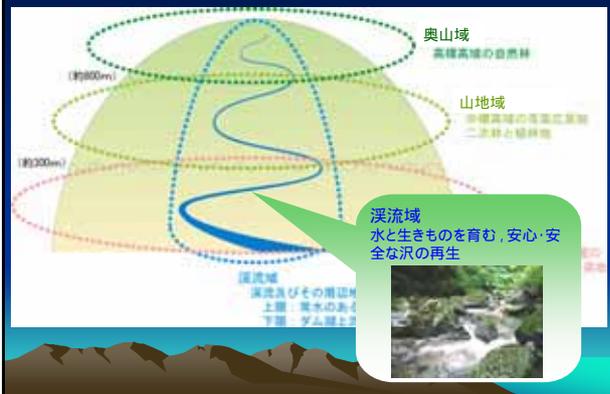
## 景観域と再生目標



## 景観域と再生目標



## 景観域と再生目標



## 改定計画の構成

- 将来像(概ね50年後)と再生目標(4景観域)
- 計画の視点(6つの視点)
- 事業計画(8つの特定課題)
- 統合再生プロジェクト(3つの統合再生流域)

## 基本的視点

- 視点1: 8つの特定課題
- 視点2: 4つの景観域
- 視点3: 統合的な事業展開
- 視点4: モニタリングによる事業見直し
- 視点5: 県民参加
- 視点6: 情報の公開

## 視点1: 8つの特定課題

<b>ブナ</b>	衰退原因は複合的 東丹沢の高標高域で深刻 シカ影響低減含めた取り組みが必要	<b>シカ</b>	鳥獣保護区で高密度化 ブナ林域での土壌流出の発生 影響は面的に拡大
<b>人工林</b>	水源涵養機能の低下 木材供給の不安定化 シカのブナ林や里山への移動集中	<b>希少種</b>	生息環境悪化で絶滅が危惧 制度的保護の必要性
<b>地域再生</b>	山際の多様な価値が低下 野生動物被害の恒常化 里山・集落景観と暮らし文化変質 地域への愛着・誇りが低下	<b>外来種</b>	丹沢大山全域に拡大中 生態系への影響が懸念
<b>溪流</b>	崩壊由来の土砂流出 予想以上のガム堆砂 既設構造物等の生物への影響	<b>公園</b>	年間30万人を超える登山者 アクセス良い東・表丹沢へ集中 オーバーコースの顕在化

## 視点3: 統合的な事業展開

対策マップの重ね合わせ



再生の基本方向を定めて、対策集中流域を抽出  
流域特性に応じて横断的な自然再生事業を展開

## 視点4: モニタリングによる事業見直し



## 改定計画の構成

- 将来像 (概ね50年後)と再生目標 (4景観域)
- 計画の視点 (6つの視点)
- **事業計画 (8つの特定課題)**
- 統合再生プロジェクト (3つの統合再生流域)

## 事業計画の概要

2007(平成19)年度～2011(平成23)年度の5か年で実施する自然再生事業

### 主要施策と構成事業より構成

特定課題	ブナ林の再生	(3主要施策 9構成事業)
特定課題	人工林の再生	(3主要施策 6構成事業)
特定課題	地域の自立的再生	(3主要施策 6構成事業)
特定課題	溪流生態系の再生	(3主要施策 6構成事業)
特定課題	シカの保護管理	(4主要施策 8構成事業)
特定課題	希少動植物の保全	(4主要施策 8構成事業)
特定課題	外来種の除去	(3主要施策 4構成事業)
特定課題	自然公園の適正利用	(3主要施策 6構成事業)
自然再生に向けた基盤整備	(4主要施策 9構成事業)	

8課題 + 基盤整備  
30主要施策  
62構成事業

現行計画  
10主要施策  
27構成事業

### 特定課題 : ブナ林の再生



### 特定課題 : 人工林の再生



### 特定課題 : 溪流生態系の再生



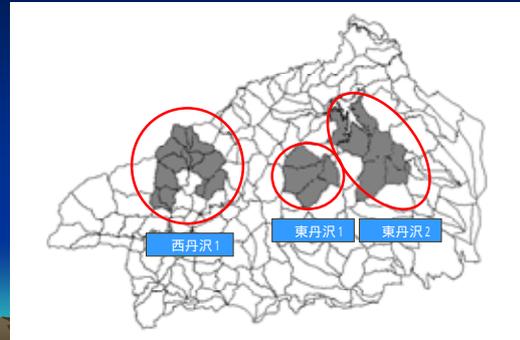
### 特定課題 シカの保護管理



## 改定計画の構成

- 将来像 (概ね50年後)と再生目標 (4 景観域)
- 計画の視点 (6つの視点)
- 事業計画 (8つの特定課題)
- **統合再生プロジェクト (3つの統合再生流域)**

## 統合再生プロジェクト



### 東丹沢1



### 西丹沢1



### 東丹沢2



## 景観域の管理 (奥山域)



< 取組課題 >

- ・ プナ林の保全・再生対策
- ・ プナ林衰弱・枯死影響の低減対策
- ・ 植生衰退地域でのシカの密度低減、定着解消
- ・ 生息・生育環境のエコアップ対策

シカの生息密度 (特別保護地区周辺)  
 20 ~ 40 頭 / km<sup>2</sup> (現状) → (5年後) 5 頭 / km<sup>2</sup> 未満  
 最大植生劣化レベル の管理ユニット数  
 12 ユニット中 6 ユニット (現状) → (5年後) 12 ユニット中 3 ユニット



## 景観域の管理(山地域)

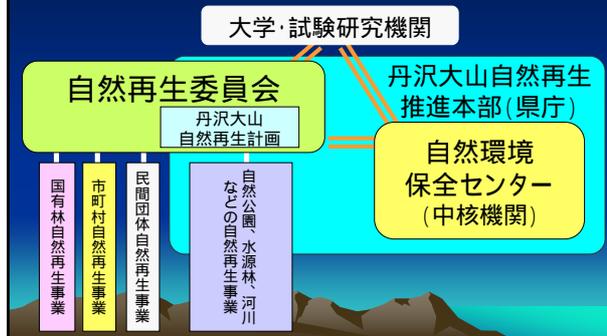
< 取組課題 >

- ・地域特性に応じた適正な森林整備の推進
- ・森林モニタリングの実施
- ・水利用の視点での水・土砂保全対策の推進
- ・生息環境管理モデル地域設定・モデル事業
- ・生息・生育環境のエコアップ対策



最大植生劣化レベル、の管理ユニット数  
 30ユニット中7ユニット(現状) → (5年後)30ユニット中4ユニット

## 自然再生の推進体制



## 計画改定スケジュール

- 平成19年度 1月22日まで 県民意見募集
- 自然再生委員会セミナー
- 2月 計画案の策定(推進本部)
  - 丹沢大山自然再生委員会への報告
  - 神奈川県議会への報告
- 4月 自然再生事業の実施
  - 順応的管理による見直し

ご意見をお寄せ下さい